

JAグループ神奈川

<http://www.jakanagawa.gr.jp/>

バックナンバーはこちらから

じゃ
いいJAん!

がながわ明日すリート 25

陸上
3千^以障害よしむられいみ
吉村玲美さん
*
茅ヶ崎市出身

陸上トラックを7周走りながら障害を28回、水濠^{みづうら}を7回飛び越える3千^以障害。この過酷な種目で日本歴代5位の記録を持つ吉村玲美選手は、競技歴5年目ながら底知れぬ可能性を感じさせる。

茅ヶ崎市立浜須賀中まではバスケットボール一筋だったが、中距離の持久走は学校で一番速かったという。「短距離は天性のものが必要だけど、長距離なら努力で伸ばせる」と、高校から陸上に転向した。縁もあって名門・白鵬女子高に進学したものの、全国区の選手を常に輩出する同校については「強豪校だと知らず、入学して約2週間でびっくりした」。そんなおおらかさに加え、バスケットで培った瞬発力や跳躍力を生かし、「平らな面を走るだけでなく、障害を飛び越える技術やレースの駆け引きが面白い」と、練習の一環で取り組んだ障害種目にのめり込んでいった。

国内大会の最高峰・日本選手権では、高校3年時の2018年に実業団選手に混じって8位入賞。「この入賞がなければ陸上は辞めようと思っていた。もっと速くなるう、極めてみたいと思えた」と振り返る転機となり、大東文化大に進学した翌年は、飛躍を遂げて初の日本一と世界選手権出場を果たした。「海外選手のハードリングは無駄がなく、障害のたびに引き離された」と、世界基準を肌で感じ、さらなる成長の糧とした。

コロナ禍にあっても、走り込みを重ねてスピードを増し、ハードル技術を磨いて、五輪選考を兼ねる6月の日本選手権に備える。JAグループ神奈川から、共に「はるみ」と名付けられた米とかんきつのセットを贈られると「練習後のご褒美にいただきます」と屈託なく笑う20歳。目の前にそびえる関門も、軽快に飛び越えてみせる。

JAグループ神奈川は、
神奈川のアスリートを応援しています。